

環境報告書2025

NECファシリティーズ



CONTENTS

ごあいさつ	3
会社概要	4
会社組織図	4
事業概要	5
環境方針	6
環境管理組織図	7
環境コンプライアンス状況（法令順守）	7
2024年度 環境活動ハイライト	8
1. 気候変動に対する取組	
2. 環境負荷低減への対応	
3. 災害対策ソリューション	
4. 環境コミュニケーション	
2024年度 環境負荷データ	13
2024年度 環境管理活動目標・実績	14
2025年度 環境管理活動計画	14
2024年度 温室効果ガス排出量	15
関連HPのご紹介	15
連絡先等	巻末

ごあいさつ

NECファシリティーズはお客様の工場施設運営を重要経営戦略としてとらえ、Facility life cycle management(用地取得、工場建設、施設管理、工場改修等)をESG視点(※)で最適な状態にする為に、保有、運営、維持を継続的に改善、改革するTotal IFM(Integrated Facility Management)で貢献する企業です。多角的かつ専門性を有した事業見地で工場施設運営の計画立案から運用までを一括でアウトソーシングが可能です。これによりお客様はリソースをコア事業に注力することができ、災害・カーボンニュートラル・規制に対する経営効率と、成長力の更なる向上が期待できます。

Total IFM は施設管理事業、建設事業、環境事業、不動産事業、保険事業の5つの事業のシナジーによって、管理・修繕を中心とする従来の施設管理はもとより、包括的で経営的な視点から、施設・設備の構想・設計、設備の調達・施工方法の選択、施設設備の状態診断から維持管理効率の改善を実施し、お客様の経営基盤の一つである工場施設の資産効率を改善しております。また、半導体・電子部品、医薬品工場等で培った5つの事業領域のマイスターの知見やノウハウに加え、Facilities Data Platformによりデータ化された施設設備の状態に基づく製造ラインを止めない運用と、変化対応力のある投資計画の策定など、お客様の工場施設運営の効率化、将来に向けての最適化をはかってまいります。

私たちはこの先創業60年を迎えるに際して、製造業の工場施設運営による“ファシリティマネジメントのプロフェッショナル”としてのご評価をいただき、国内外で事業の伸長を続ける所存です。これからもお客様のファシリティに関わる課題に真摯に向き合い、社員一同研鑽を重ね、社会に貢献してまいりたいと存じます。

この度、2024年度に当社が行った環境活動を「環境報告書2025」として発行し、ご紹介させていただく運びとなりました。

つきましては、是非ご高覧いただき当社の環境活動への取り組みをご理解いただくとともに、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。



NECファシリティーズ株式会社
代表取締役執行役員社長

尾崎英次

※ ESG:企業の「Environmental環境」「Social社会」「Governanceガバナンス」の取り組みを指す指標です。ESGに優れた企業は、顧客や投資家から高い評価を受けます。持続可能な社会の実現に貢献しながら、企業価値の向上にもつながるのがESGの特徴です。

会社概要

社 名 : NECファシリティーズ株式会社 (略称:NECF)

創 立 : 1966年12月

本 社 所 在 地 : 〒105-0014 東京都港区芝二丁目22-12 (NEC第二別館)

資 本 金 : 2億4千万円

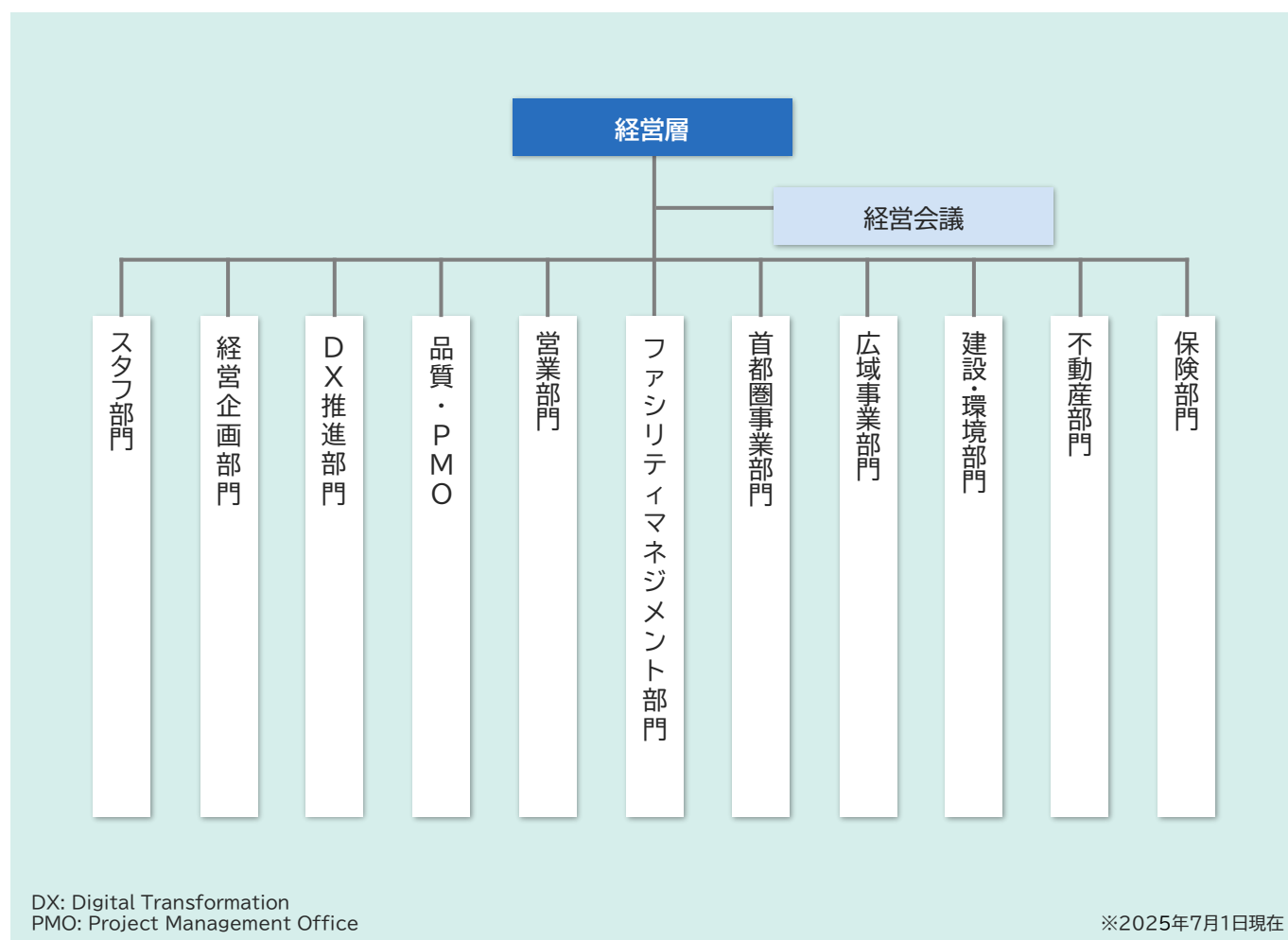
代 表 者 : 代表取締役執行役員社長 尾崎 英次

従 業 員 数 : 単独 1,931名 / 連結 2,368名 (2025年4月1日現在)

売 上 高 : 単独 1,308億円 / 連結 1,745億円(2024年度)

グループ会社 : NECプラントエンジニアリング株式会社

会社組織図



Total IFM

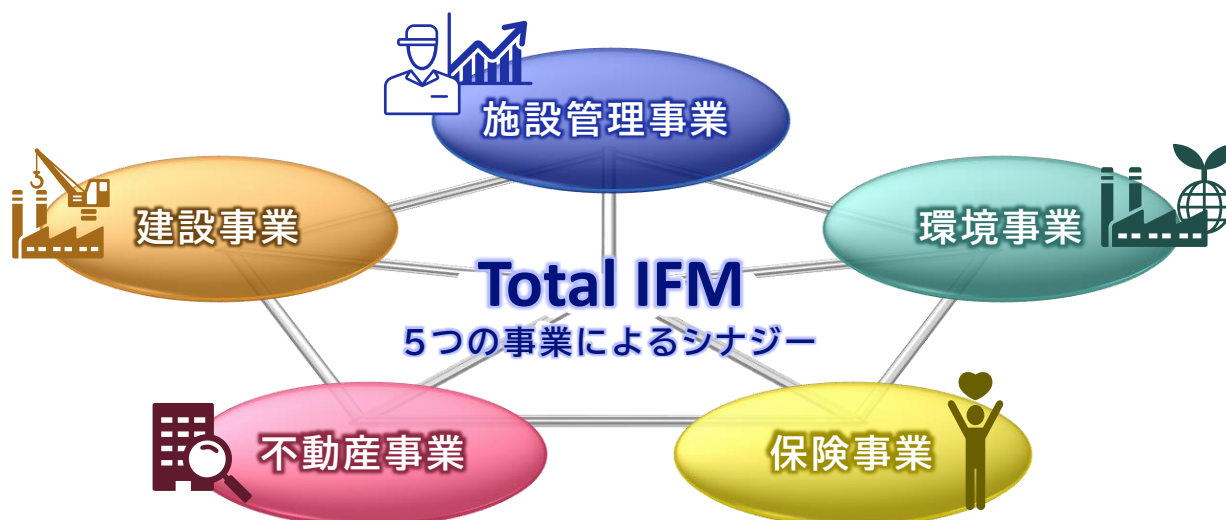
Total Integrated Facility Management

多様化するニーズに的確に対応し、
お客様の潜在的な課題まで解決します。

当社は、お客様の重要な経営資源である工場施設のFacility life cycle managementにTotal IFM(施設管理、建設、環境、不動産、保険の5つの事業のシナジー)で貢献する企業です。

私たちの大きな特長は二つ。一つは、5つの事業がお互いに連携を図ることにより、幅広い視点からお客様の課題やニーズに対応できること。もう一つは、5つの事業においてさまざまな公的資格取得者を擁する“工場施設運営のプロフェッショナル集団”として、お客様の潜在的な課題まで見いだして解決策を提案できる点です。

お客様の資産価値を維持・向上させ、より効率的・安定的な経営環境を実現するビジネスパートナーとして、各事業分野の総力を結集して多彩なサービスを創出してまいります。



環境方針

基本方針

NECファシリティーズは、不動産、建設、オフィス管理、プラント施設、環境、保険の事業活動を通じて、一人ひとりの意識の向上を図り、人と地球に優しい循環型社会の形成と環境保全に貢献します。

行動指針

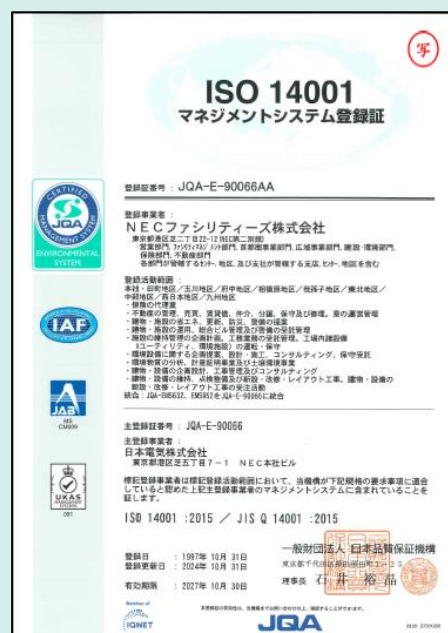
1. 全ての事業領域において企画・計画の段階から環境・安全に配慮し、省資源・省エネルギー、廃棄物発生抑制、再利用・資源化を進め環境影響の低減に努めます。
2. 環境に関する法規制・条例や自主的な取り決め事項を順守し、お客様や社会への責任を果たします。
3. 経営活動の一環として環境目標を設定し、改善活動を展開すると共に定期的に見直しを行い、環境パフォーマンスの継続的な改善と汚染の予防に努めます。
4. 環境方針は、従業員への環境教育・訓練の徹底と共に、協力会社への指導・支援を含め周知し、一般の人が入手可能なように開示します。

NECファシリティーズ株式会社
代表取締役執行役員社長
尾崎 英次

※ 環境方針は社外のどなたでも入手又は閲覧できます。

● ISO14001認証状況

審査機関 : 一般財団法人 日本品質保証機構(JQA)
登録日 : 1997年10月31日
登録証番号 : JQA-E-90066AA
登録事業者名: NECファシリティーズ株式会社
東京都港区芝二丁目22-12(NEC第二別館)



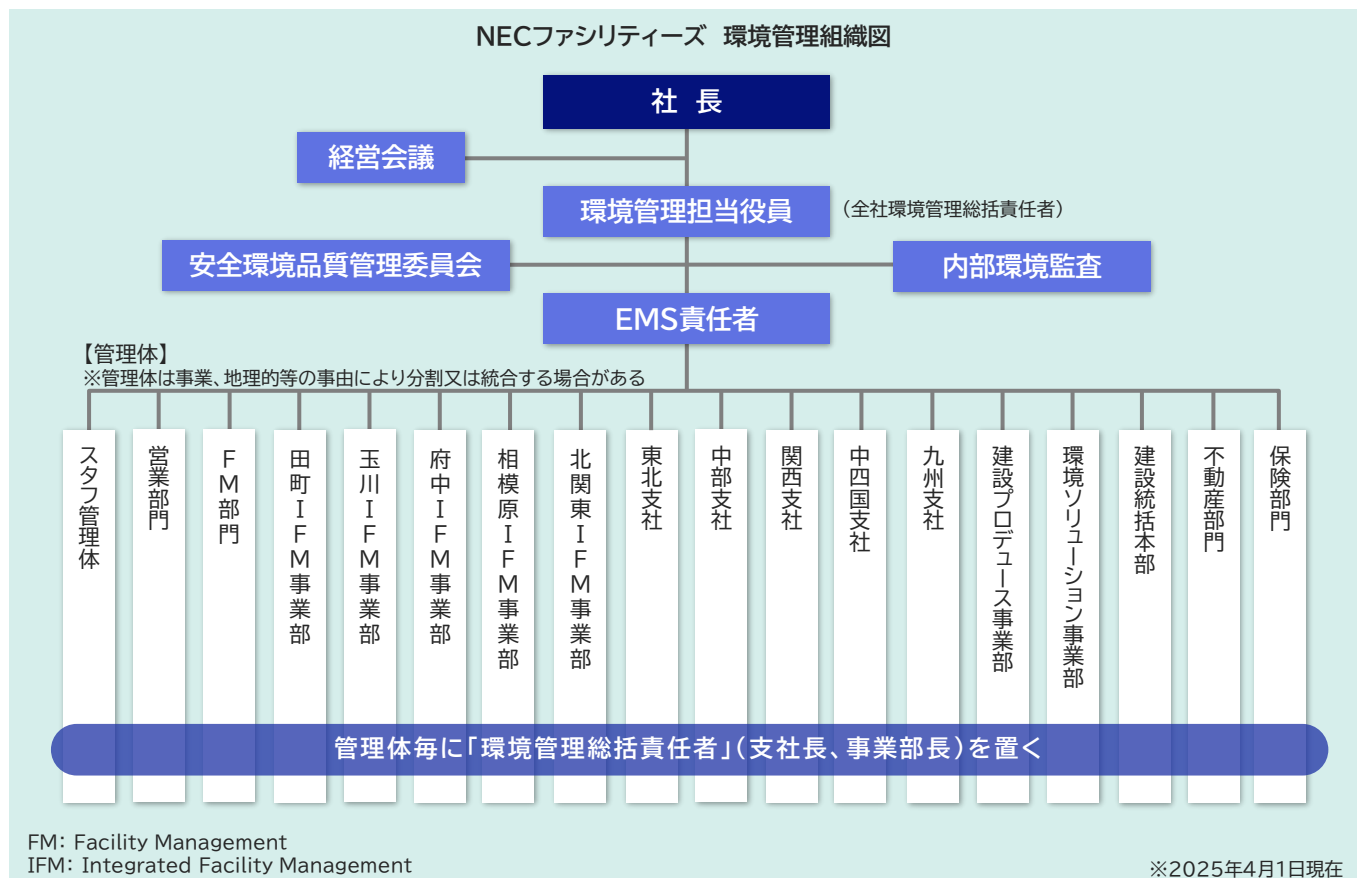
環境国際規格「ISO14001」認定登録証

環境管理組織図

当社では、経営会議により方針を決定し、それを受け、全社環境管理総括責任者による環境管理活動を展開しております。

日常の活動は、環境マネジメントシステム責任者(EMS責任者)が取りまとめを行い、各管理体(事業部門)選出の環境管理総括責任者/統括責任者等によって環境マネジメントが実行されております。

また、重要事項は環境管理総括責任者で構成される安全環境品質管理委員会により協議、伝達されております。



環境コンプライアンス状況（法令順守）

当社は、定期的に環境関連法規制の順守状況を確認しております。

また、NECによる環境経営監査、外部審査機関による環境ISO審査をはじめ、NECグループ全社員対象の「NECコンプライアンス研修」(Eラーニング)でも環境コンプライアンス研修を行い、順守状況について確認を行っております。

2021年	6月	法律その他の要求事項確認結果	→ 不順守事項なし
2022年	6月	法律その他の要求事項確認結果	→ 不順守事項なし
2023年	6月	法律その他の要求事項確認結果	→ 不順守事項なし
2024年	6月	法律その他の要求事項確認結果	→ 不順守事項なし
2025年	6月	法律その他の要求事項確認結果	→ 不順守事項なし



NEC環境経営監査



2024年度 環境活動ハイライト

1. 気候変動に対する取組

■太陽光発電システムを国内事業場にて導入

●社内/○顧客、●緩和/○適応

NECグループでは、再生可能エネルギーの導入による温室効果ガス排出の抑制を推進しています。

当社は、各事業場のエネルギー消費をマネジメントしながら、再生可能エネルギーの導入効果を算定の上、設備設計、施工、運用管理を実行しています。



太陽光セル埋込窓ガラス採用

環境配慮PRと壁・ガラス面での導入効果検証を目的に、窓ガラスの太陽光セルを配置。



■高効率な遮熱素材の評価

地球温暖化の影響により猛暑日が増え空調設備の冷房稼働期間が長くなると、室外機や配電盤等の温度負荷も高まり、エネルギー消費効率が低下します。それら機器の温度上昇抑制により、消費電力を抑え、高温に弱い電子部品の損傷を守る効果があります。

当社では、NECグループの複数事業場にて各種遮熱素材(遮熱シート、遮熱塗料、遮熱カバー)について、温度上昇抑制効果、耐久性、コスト等の実用性を評価。設備特性や設置環境などに応じた各素材の効果を検証しています。

遮熱シートによる省エネ効果検証の様子



遮熱シート無し



遮熱シート有り



温度計を設置して盤内温度を計測

■施設管理受託サービス×省エネルギー対策ソリューション

○社内/●顧客、●緩和/○適応

当社の「施設管理受託サービス」は、AI・IoTを活用したファシリティのヘルスケア(設備コンディションの維持・回復)、デジタルデータに基づく最適な運転オペレーション、高効率設備への更新やエネルギー計画などエンジニアリング業務の提供を通じ、お客様の温室効果ガスの削減をアシストしています。

- 建物：屋根の断熱性能改善、窓の断熱性能改善、自然エネルギー利用型建築 等
- 空調：空調機リプレイス、換気量制御、換気からの熱回収 等
- 電気：高効率変圧器、力率改善、分散発電 等
- 照明：高効率器具への更新、LED機器、センサー照明、調光システムへの交換 等
- 動力：インバーター制御、ポンプ再生施策、高効率機器へのリプレイス 等



ボイラー更新



ポンプ更新



セントラル空調機更新



低温冷凍機更新

■熱源設備最適運転による温室効果ガス削減

○社内/●顧客、●緩和/○適応

熱源機器が複数台設置されている工場などでは、熱負荷に応じて運転を最適にコントロールすることでエネルギーの消費を抑える事が可能です。また、熱源の効率が高くなるよう熱源送水温度を制御することで、さらなるエネルギーの削減が期待できます。当社では、お客様のユーティリティ設備のオペレーション最適化によるエネルギーの削減により、温室効果ガス排出量の抑制やコスト削減に貢献します。

■事例紹介

【工場内の温水・冷水生成プロセス最適化】

①現状把握： 温水・冷水を生成する熱源設備で、機器ごとのロスに着目

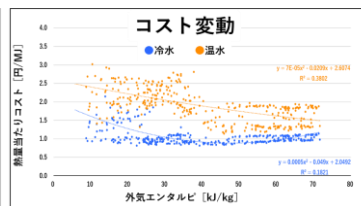
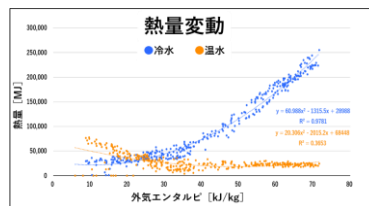
〔絞り込み〕 熱源設備で、機器ごとのロスに着目してデータ分析し、熱量当たりのコストの違いを確認



〔傾向分析〕 外気エンタルピーから季節変動要因を確認

（左グラフ）ブレ幅が小さく影響少

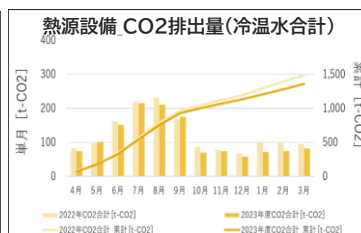
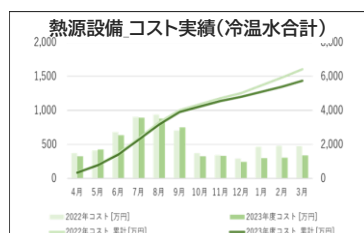
（右グラフ）日常のオペレーションに運転効率変動要因があると推測



<仮説の立案>

負荷熱量の変動に対して最適な熱量の熱源機器を組み合わせることでロスを削減しコスト削減

②実証評価：仮説の効果検証を実施



<仮説の検証>

前年度実績と比較検証し効果を確認

③対策立案： 実証評価より、対策を立案する

熱交換時の熱量あたりコスト低減対策

〔温水生成時の熱量あたりコスト〕

低コストの冷温水チラーを優先的に稼働させるため設定変更やオペレーション調整を実施
（高コストの熱交換機の稼働時間を削減）

〔冷水生成時の熱量あたりコスト〕

低コストのターボ冷凍機を優先的に稼働させるため設定変更やオペレーション調整を実施
（高コストの冷温水チラーの稼働時間を削減）

④効果の確認および水平展開

<実績>

本ケースの最適化により、次の効果が得られた
CO2削減： 8.7%減
コスト削減： 10.7%減

<水平展開>

- ①同顧客内、類似課題への水平展開
- ②ノウハウを他のお客様へ活用

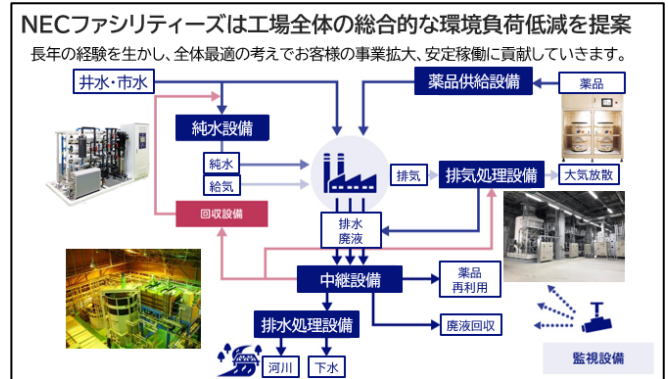
2. 環境負荷低減への対応

■ 工場全体を対象とした環境負荷低減を実現

○社内/●顧客、○緩和/●適応

半導体や電子部品を製造する工場では、化学薬品に加えて多量の“水”を使用します。そのため“水”が豊富な立地に工場を建設することが多いですが、給水・排水のために多額のコストを必要とします。また、条例により、給水量や排水量に制限が課せられるケースもあります。

当社は、工場排水を回収・処理し、場内で再利用することで給水・排水量を低減する排水回収設備の導入サポートを行っています。水処理設備単体ではなく、工場全体を対象とした“水バランス”の最適化により、お客様の水資源の有効活用のニーズに応えていきます。



工場の排水再利用のイメージ

【環境の匠システムの活用】

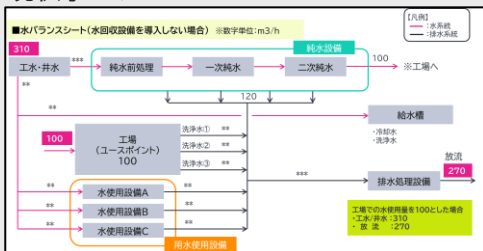
従来、水バランスは複数パターンの提案モデル検討を特定のノウハウを持つ限られた“匠”の技術者で行っていたため、サービスのご提供までに長い時間要する点が課題でした。

当社は、このモデリングのプロセスを『環境の匠システム』としてデジタル化しました。必要な情報を入力することで複数の提案モデルをその場で比較、お客様に最適なプランを速やかにご選択いただけるようになり、お客様の水リスク対策を早期に解決いたします。

(2024年度はパイロット版でのテストを実施、2025年度より本格運用開始)

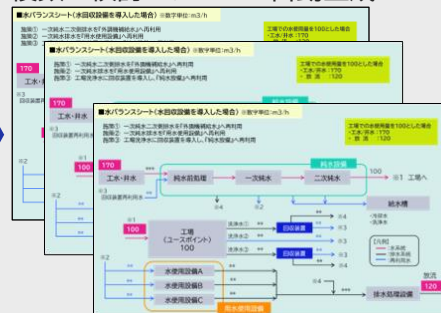
環境の匠システムのイメージ

現状水バランス



現状のバランスを任意で作成

複数の検討パターンの自動生成



コストイメージ

検討条件	投入量	処理量	単位	単位料金	処理料金	注
排水量	310	270	m ³ /日	170	45,900	円/日
排水量	170	120	m ³ /日	240	40,800	円/日
排水量	340	300	m ³ /日	240	81,600	円/日

現状のバランスをもとにお客様と協議しながらその場でフローを変更し効果を共有

【建設産業廃棄物の再資源化】

当社では、建設リサイクル法に則り、建設発生材の再資源化に取り組んでいます。工事現場で発生した建設材料は、品目ごとの分別を徹底し、再資源化を促進しています。こうした取り組みにより、埋め立てゴミの削減や資源の効率化が可能となります。さらに、廃棄物の輸送・処理コストの低減や、二酸化炭素排出量の抑制にも寄与しています。



■ 自動車事故防止による環境改善活動

●社内/●顧客、●緩和/○適応

当社はNECグループ各社および従業員に対し、交通安全講習会や運転適性診断を実施し、事故防止とともにエコドライブの推進を通じた環境影響の改善に取り組んでいます。

当社が取り扱う自動車保険契約企業に対し、交通安全講習会開催や交通事故防止動画のYouTube配信といった独自のソリューションを提供しています。2024年度は、事故防止セミナーを26社に67回、YouTubeの配信を20本を実施し、エコドライブの啓発を行いました。

また、当社内ではNECの安全運転支援サービス『くるみえ®』を社有車へ導入しています。ドライバーの安全運転に加え、急加速、急ブレーキを抑制することで低燃費運転を意識し、温室効果ガス排出の低減を図っています。

（『くるみえ®』: <https://jpn.nec.com/kurumie/index.html>）



『くるみえ®』イメージ

※「くるみえ」は、NECの登録商標です。

3. 災害対策ソリューション

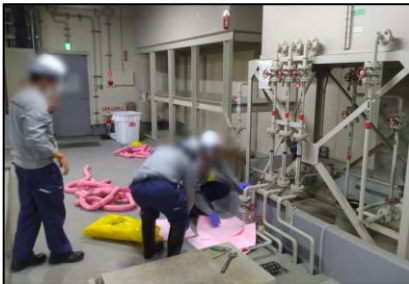
■ 委託先の緊急対応訓練

○社内/●顧客、○緩和/●適応

災害による環境への影響を防止するため、大地震、津波、集中豪雨(豪雪)など高リスクの自然災害を想定した訓練を行い、災害発生時の被害最小化や早期復旧に備えています。

環境リスクはもとより地域特性や気象変動を考慮したさまざまなテーマについても訓練を実施する事で、柔軟な対応力を養います。

2024年度は、NECグループ外を含めて341件の訓練を実施・参加しました。



漏洩した重油回収訓練



特殊災害防御対応訓練



ボイラ燃焼状態確認

4. 環境コミュニケーション

■ FM-Base®の紹介

●社内/○顧客、●緩和/●適応

2024年5月、NEC我孫子事業場内に、ファシリティマネジメント人材の早期育成およびDXの開発を目的に『FM-Base®』を開設いたしました。本施設は、クリーンルームを中心としたユーティリティ11設備の実機を設置し、リアルな半導体工場を再現、仮想設備により、現場では体感できないトラブルシューティングなどのオペレーション訓練を行うことでファシリティマネジメント人材の育成期間の短期化を実現を目指しています。



FM-Base®内観

また、本施設はデジタルを駆使した次世代のファシリティマネジメントサービスの開発拠点でもあります。デジタルツイン技術により設備の稼働状態を仮想空間上に再現することで、様々な影響因子を考慮した高効率な省エネルギーや環境負荷のシミュレーションを行い、当社サービスの高度化を図っていく計画です。

*「FM-Base」はNECファシリティーズ株式会社の登録商標です。

■ イベント等での環境対応ソリューションの紹介

●社内/●顧客、●緩和/○適応



「FM-Base®」の模型を使用した紹介

同時に開催したセミナーでは、設備の原単位から独自の管理手法を用いて効率性を算出し、最適な運用を図る施設管理に於けるエネルギーマネジメントについてご来場頂いた多くのお客様に紹介しました。
(右写真)

2024年度は、NECグループの一員として「脱炭素経営EXPO」に出展しました。

展示では、「脱炭素社会に向けた工場施設運営」と題して、50年以上にわたる工場施設運営に取り組んできた“匠”の技とDXの技術を融合する事による効果を紹介しました。

工場に於いては、冷凍機個々の原単位を測定し、その値の変化を読み取る“匠”の知見を組み合わせる事で、“故障予兆”や“フィルターの汚れ”等を見出し、安定した稼働を維持する取り組みや、過去のデータから未来をシミュレーションする事で、ライフサイクルを可視化するなど、原単位管理分析やエネルギー使用(最適化)合理化による脱炭素の実現についてを紹介しました。



セミナーの様子

■ 生物多様性保全・地域とのコミュニケーション

●社内/●顧客、○緩和/●適応

NEC我孫子事業場では四つ池を中心とした生物多様性保全活動が展開されています。日々の保全作業はもちろんのこと、休日にはグループ会社を含めた従業員及びそのご家族を対象に生物保全イベントを開催しています。

2024年度は計4回のイベントを開催し、生物保全活動の重要性をご理解頂きました。



NEC我孫子事業場の四つ池

環境活動支援/参加事例

- 関西支社: 美しい街づくり運動 (写真①)
- 九州支社: 大新田海岸清掃 (写真②)
- NECPE: 錦江湾クリーンアップ作戦 (写真③)、他

当社が常駐する事業所では、地域の方々とのコミュニケーションを図りながら、生物多様性保全活動・地域社会貢献活動の開催支援や活動参加を継続的に行っております。



写真①

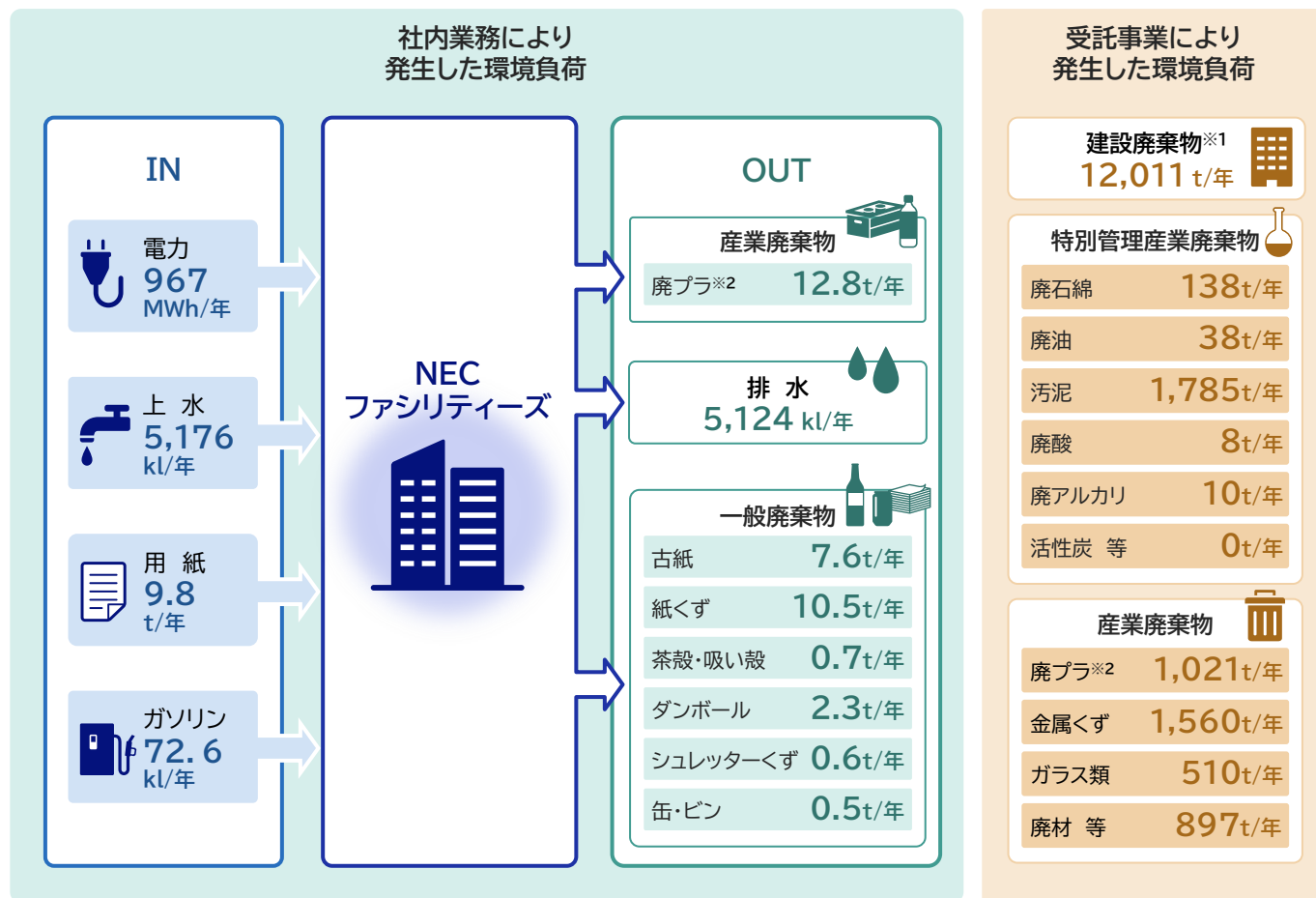


写真②



写真③

2024年度 環境負荷データ



※1:建設廃棄物についてはリサイクル率95%以上を達成しております。

※2:廃プラについては「プラスチック資源循環促進法(通称:新プラ法)」に準拠し、「産廃契約書の管理」「産廃マニフェスト伝票管理」「産廃処分場現地確認」「廃棄物管理教育(環境管理専門教育)」により、排出抑制や再資源化促進等を実施しております。

【社内業務により発生した環境負荷】

電力 : 本社(NEC第二別館)及び当社がテナント入居する12ビルの合算使用量です。

上水 : 本社(NEC第二別館)の飲料及び生活用途での使用量です。

用紙 : NECF単独のコピー用紙等の購入量です。

ガソリン : NECF単独の営業車燃料の購入量です。

産業廃棄物 : 本社(NEC第二別館)で発生した廃プラの排出量です。※全てサーマルリサイクルされております。

一般廃棄物 : 本社(NEC第二別館)で発生した事業系一般廃棄物の排出量です。

※古紙は機密文書、古紙、MIX紙の排出量です。

※古紙、ダンボール、シュレッダーくず、缶・ビンはマテリアルリサイクルされております。

※紙くず、一般ゴミ等はサーマルリサイクルされております。

排水 : 本社(NEC第二別館)で発生した生活排水量です。

省エネ法 : 電力使用量並びに都市ガス使用量の原油換算値は省エネ法特定事業者(原油換算1500kl)には該当しませんが、当社では省エネプロジェクトを発足し本社(NEC第二別館)及び当社がテナント入居する12ビルの省エネ推進を実施しております。

【受託事業により発生した環境負荷】

建設廃棄物 : 建設元請け事業により発生した建設廃材等の排出量です。

産業廃棄物・特別管理産業廃棄物 : 建設元請け事業やその他の受託事業で発生した廃プラ、廃石綿、廃酸等の排出量です。

2024年度 環境管理活動目標・実績

環境目的・目標	評価指標	目標値 / 実績値	
目的 1 重大環境事故・法令違反の未然防止。 目標：発生件数0件	発生件数 (件)	目 標	0件
		実 績	0件
目標①：事業内容や地域の特性を考慮し、想定した緊急事態対応訓練を実施する。 目標実施率：100%	訓練実施率 (%)	目 標	100%
		実 績	100%
目標②：NEC環境教育(eラーニング)を受講する。 目標受講率：95%以上	受講率 (%)	目 標	95%以上
		実 績	100%
目的 2 ご提案書又はそれに準ずる帳票を活用した環境・省エネ提案を行う。 目標：1,100件以上	提案件数 (件)	目 標	1,100件
		実 績	1,062件
目的 3 NECF対象ビルの電力使用量を2023年度実績見込み(CO ₂ 換算)以下とする。 目標：432 t-CO ₂ 以下	13ビル 電力使用量	目 標	432t-CO ₂ 以下
		実 績	441t-CO ₂
目的 4 生態系・生物多様性保全に寄与する活動に参加する。 目標：650件以上	参加件数 (件)	目 標	650件
		実 績	952件

※「2024年度 当社環境管理実施計画書[進捗管理](全社版)」より抜粋

2025年度 環境管理活動計画

環境目的・目標	目標値
目的 1 重大環境事故・法令違反の未然防止。	発生件数 0件
目標①：事業内容や地域の特性を考慮し、想定した緊急事態対応訓練を実施する。 目標実施件数：291件	実施率 100%
目標②：NEC環境教育(eラーニング)を受講する。	受講率 95%以上
目的 2 エコアピールプロポーザルの推進を行う。 目標①：ご提案書又はそれに準ずる帳票を活用した環境・省エネ提案を行う。	1,000件以上
目的 3 NECF対象ビルのCO ₂ 排出量(電力使用量)を削減する。 目標①：NECF対象ビルのCO ₂ 排出量を、2024年度実績見込み(CO ₂ 換算)より3%以上削減(対2020年度より、15%以上削減) ※2020年度:CO ₂ 排出量(501t-CO ₂) ※2024年度:CO ₂ 排出量(441t-CO ₂) ※CO ₂ 換算係数 2024年度:0.456t/MWh 2025年度:0.390t/MWh	425.6t-CO ₂ 以下
目的 4 生態系・生物多様性保全に寄与する活動に参加する。 目標①：850件以上 ※目標内訳：保険事業本部:150件、不動産事業本部:100件、スタッフ管理体:530件 建設統括部:70件	850件以上

※「当社エコアクションプラン2025」より抜粋

2024年度 温室効果ガス排出量

当社は、事業活動に伴う温室効果ガス排出量を継続的に把握することを目的として、2023年度から算定を開始しました。温室効果ガス排出量は、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき算出しており、2024年度の活動量に対する当社の温室効果ガス排出量は以下の通りとなります。

Scope	概要	算定対象範囲	温室効果ガス排出量 (単位：t-CO ₂)
Scope1	事業者が所有または管理する排出源から発生する温室効果ガスの直接排出	社用車使用時の燃料使用量	166
Scope2	電気、蒸気、熱の使用に伴う温室効果ガスの間接排出	本社及び当社入居しているテナント計13ビルでの電力消費量	441
Scope3	Scope 1および2を除く、企業の上流・下流工程を網羅したその他の間接排出	以下内訳参照	127,341
温室効果ガス排出量合計			127,948

Scope3内訳は以下になります

Category	概要	算定対象範囲	温室効果ガス排出量 (単位：t-CO ₂)
Category1	原材料・部品、容器・包装などが製造されるまでの活動に伴う排出	自社へ投入された原材料・部品、商品、サービス等全般	125,218
Category5	自社で発生した廃棄物の輸送処理に伴う排出	一般廃棄物および建設廃材など産業廃棄物全般	1,320
Category6	従業員の出張に伴う排出	出張等、業務における移動の際に使用された交通機関における燃料・電力消費	251
Category7	従業員が通勤する際の移動に伴う排出	通勤の際に使用した公共交通機関(鉄道、バス)および車、バイク	552

※ 温室効果ガス排出量はNECF単独で算定しております。
※ 温室効果ガスとは、CO₂(二酸化炭素)、CH₄(メタン)、N₂O(一酸化二窒素)、HFCs(ハイドロフルオロカーボン類)、PFCs(パーフルオロカーボン類)、SF₆(六フッ化硫黄)、NF₃(三フッ化窒素)を指します。

関連HPのご紹介

NEC(サステナビリティTOPページ) ▶ <https://jpn.nec.com/sustainability/ja/index.html>
NECファシリティーズ ▶ <https://www.necf.jp/>

※HPアドレスは2025年7月現在のものです



NECファシリティーズ(株)は『Fun to Share』に参加し、社員一丸となって、低炭素社会にむけた取り組みを行っております。

賛同
宣言文

NECファシリティーズは、省エネソリューションサービスを通じて、人と地球に優しい低炭素社会の形成に貢献します。

ご質問/ご意見等をお寄せください…

ご質問/ご意見等がございましたら、お手数ですが下記の発行元/連絡先までお寄せください。

●発行元/連絡先

発 行：2025年 8月

連絡先：〒105-0014 東京都港区芝二丁目22-12(NEC第二別館)

NECファシリティーズ株式会社

IFM品質保証部

TEL:03-5476-5608